

被災者との交流

「東日本大震災/福島ばいま」2022 大内秀一さん1

大内秀一さん(福島県川俣町山木屋在住)からの聞き取り

* 大内秀一さんと盛進は2011年7月からつながっている

Q1, 震災から約11年。今の状況は?

阪神淡路大震災にしたら福島原発事故だってね、人の立ち直るバイタリティー(活力)っていったら、すごいものがありますよ。実際に津波被害を被った沿岸部は、まだ爪痕が残っていますけども、私が暮らす福島県川俣町山木屋は、すでに、震災の傷跡があまり感じられないほどです。でも、風化が一番、怖いことですね。

Q2, 変わったこと

放射能被害を逃れた避難先から山木屋に戻ってきたのは、318人。避難する前は、1300人だったから、約1000人はどこかに移住してしまいました。でも、自分の仕事に合った場所で暮らすのは、ごく自然な形じゃないですか。みんなそれぞれね、住む場所も「選択の自由」があるんですからね。それは、一つの「前進」だととらえています。山木屋の土地を必要とする人が山木屋に住めばいいんです。



私たちが胸張って福島出身です。と言え、る日はいつ来るの
出口の見えないトンネル底なし沼。もう限界です。



「東日本大震災/福島ばいま」2022 大内秀一さん2(つづき)

Q3, 変わらないこと

変わらないというよりも、逆に自分の故郷をなんとかしなくちゃならない。っていう思いが、以前に増して強くなりましたね。

Q4, これからの目標や生きがい

自分は、山木屋が一番なんですよ。もう40年毎年、田んぼに、夜中に水をまいて「田んぼスケートリンク」を作っていますが、ここでしかできないことですからね。今年はコロナの影響で、スケートに来た人数は半分以下。でもね、例年になく田んぼの条件は良いし、みんなで元気にやっていますよ。普通だったらね、こんな寒い所で、田んぼでスケートやるなんて、考えられないことかもしれないけど、山木屋が好きなのでなんとかやっています。昔はこうだったなんて、いつまでも振り返ったってしょうがない。だからね、まっさらな状態から良い山木屋を作りたいと思っています。全国的にも「田んぼスケート」なんてありません。だから、それを売りにして、ふるさと再生をやっていきたいと思っていますよ。

